

# 林業安全コラム

**5Sは安全の基礎造り  
危険なくしてゼロ災害 ヨシ!**

(2016年度 月間安全衛生スローガン)

## ○ 林業労働災害発生状況について

	H25年	H26年	H27年	H28年(H27同期)	H27, 28比(※)
死傷者数(人)	1,723	1,611	1,619	1,082(1,102)	-20
死亡者数(人)	39	42	38	21(23)	-2

※ 平成28年の数値は、平成28年9月末現在の数値。比較は前年同期比。

今年の林業労働災害の発生状況(速報)は、前年同時期に比べ死亡者数は2名減少しており、死傷者数は20人減少しています。これからの時期は、降雪前の繁忙期を迎えることとなるとともに、風雨が多くなるため労働災害の増加が懸念されます。引き続き、積極的に安全衛生活動を実施していただき、労働災害の防止に努めましょう。

## ○ 新規就業者に対する安全指導の徹底を!

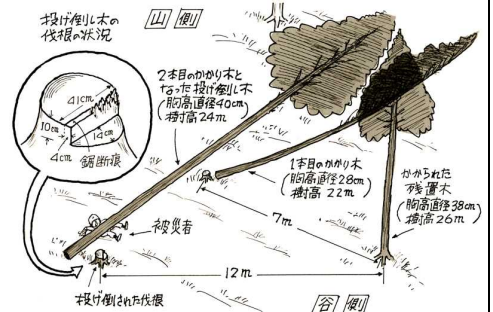
「緑の雇用」事業において、9月21日研修生の死亡災害が発生しました。

死亡災害は、日頃の安全管理や研修生に対する安全指導体制のあり方が問われる重大な災害です。特に新規就業者をかかえている林業事業体におかれては、人材の育成に当たり、災害リスクの洗い出しなど徹底した安全指導をお願いします。

## ○ 林業労働災害の発生事例について (類似災害防止のために)

林齢65年、林地傾斜約15度のヒノキ人工林の間伐の伐倒作業を3人で分かれて実行中、被災者の担当方向から音がしなくなった。これを不審に思った同僚が、伐倒木の下敷きとなった被災者を発見した。以下の記述は、被災現場の状況を調査した結果に基づく推定である。

被災現場では、残置木(胸高直径38cm、樹高26m)の地上約18m付近に出た枝に、斜め上方7mに位置する伐根の直近に元口を着地した伐倒木(胸高直径28cm、樹高22m)が片枝状となった枝を上に向けてかかり木となっていた。



これら枝のうち根元に近いものは折れたり、引きちぎられたりしていた。投げ倒し木(胸高直径40cm、樹高24m)は、残置木とほぼ水平に約12m離れた位置に伐根があり、残置木の反対方向のやや下方に元口を落とし、斜め上向きに倒伏していた。この伐根には、残置木の方向に深さ14cmの受け口、高さ10cm、長さ41cm、幅4cmのつるが形成されており、谷側から25cmにわたってチェーンソーで切断した形跡があった。これらの状況を勘案すると、

- 1 先に発生したかかり木を投げ倒しによって外そうと試みたものの、二重のかかり木となった。
- 2 これを処理するため、2本目のかかり木(投げ倒し木)の伐根に残ったつるを切断中に、2本のかかり木によって、たわめられていた残置木の力が、弱くなった残部のつるをちぎった。そのことによってゆるんだ残置木が復元反発し、同時に、切断中のかかり木が伐根から離れ、さらに1本目のかかり木の傾斜等の影響で予期しない方向にはねて、退避不十分な被災者に覆いかぶさったものと推測される。(林災防ホームページ「災害事例研究No.5」より)。

- ・ 11月は職業能力開発促進月間(技能の日は11月10日)
- ・ 秋季全国火災予防運動(11月9日~15日)

林業労働対策室  
労働安全衛生班  
TEL:03-3502-1629